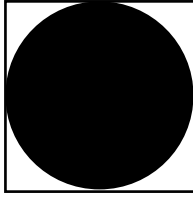


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 176

2026. 4

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪 圭 輔

ニュース担当 矢澤 聡

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

平和のための美術教育

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 手塚 千尋

第二次世界大戦後の社会を「戦後」と呼ぶことを躊躇するほど、今も世界のどこかで戦争や紛争が続いています。教育を専門とする私たちにとって、武力行使による問題解決の道を選択せざるをえない旧態依然とした世界秩序のあり方に、深い無力感を感じずにはられません。このような状況だからこそ、よりよい世界づくりに向けて美術教育が果たすべき役割とはなにかを問い直したいと思い、久しぶりにH.リード『平和のための教育』を開いてみました。

リードは著書の中で、戦争を回避する道を「芸術によるあらゆる種類の創造的な遊び」に見出しました。それは「事物による教育」と「人々を結びつけるように教育すること」を一体化させた試みです。すなわち「芸術を通じた教育 (Education through Art)」では、文化的な創造活動において自己表現したり自己決定したりする経験が、他者への攻撃という形での自己表出を回避できるという考えです。一方で、現代社会の断絶や分断は個人の思想や思考に深く影響し、社会的課題を複雑化させています。この困難な状況に、美術教育はどのようにアクセスできるのでしょうか。

UNESCO「文化芸術教育のためのユネスコ・フレームワーク (2024)」にその手掛かりを求めてみると、「文化芸術」の説明からたくさんのキーワードを得ることができます。(少し長いですが一部抜粋します)。“文化芸術が、個人と社会の全体的かつインクルーシブな発展、レジリエンス、ウェルビーイング全般に不可欠であることを認識する。文化は、我々を人間たらしめるものの核心であり、我々の価値観、選択、そしてお互いや自然との関係の基礎を提供し、我々に批判的思考、アイデンティティの感覚、そして他者を尊重し受け入れる能力を与えるものである。”

この「文化芸術」を広義の美術教育として捉え直すことは、学校、家庭、地域、社会教育などのあらゆる文脈で展開されてきた活動に新たな意義を見出すと共に、更なる発展の機会をもたらします。リードが提唱した「人間らしく創造的に生きている状態 (積極的平和)」の実現に向けて、私たちが取り組む美術教育が多なる貢献をしていることの自負を持つと共に、社会全体へアピールすることも大切にしていきたいと考えています。

令和8 (2026) 年度第16回定時総会 招集通知

総会記念講演会及び定時総会を、下記の要領で開催いたしますので、会員の皆様はご出席のほどをお願いします。

□日時：令和8 (2026) 年5月10日 (日)

□場所：武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス 503号室

□総会記念講演会 (一般公開) 13:30-15:00

講演者：小林恭代・平田朝一

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

題目：「学習指導要領実施状況調査の結果と指導の改善・充実」

方法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催

□定時総会 (会員のみ) 15:15-16:15

方法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催

ZoomミーティングID：897 2105 8110 パスコード：201430

議案：第1号議案 定款改訂の件 第2号議案 令和7 (2025) 年度事業報告の件

第3号議案 令和7 (2025) 年度決算及び監査報告の件 報告事項

総会議案書は、5月1日より連合ホームページにて公開

出欠：ご欠席の場合は、同封の委任状を必ずご送付ください。

■理事候補者選出選挙の開票結果報告■

第9期選挙管理委員会委員長 佐藤 牧子

公益社団法人日本美術教育連合定款第25条に定める役員任期満了に伴い、第9期理事候補者選出選挙を実施した。本選挙は、「理事候補者選出選挙に関する申し合わせ事項」および「選挙管理委員会及び選挙業務に関する申し合わせ事項」（令和5（2023）年1月22日理事会確認）に基づき実施された。ここに、その概要と結果を報告する。

まず、令和7（2025）年6月15日の第3回理事会において第9期選挙管理委員会が設置され、「連合ニュース175号」（同年9月）にて理事候補者選出選挙を公示した。選挙管理委員は以下の4名である。

佐藤牧子（委員長） 茂木克浩（委員） 川人武（委員） 小林貴史（顧問）

その後、被選挙人名簿を作成し、令和7（2025）年11月9日の第5回理事会及び運営委員会において、選挙人（兼）被選挙人名簿の承認を得た。投票用紙は同年12月1日に有権者へ郵送した。

〈投票概要〉

- 投票期間：令和7（2025）年12月上旬～12月31日（消印有効）
- 投票方法：返信用封筒による郵送投票（15名以内）
- 有権者数：239名（国内238名、国外1名）

〈開票概要〉

- 開票日時：令和8（2026）年1月7日 16：30～20：00
- 開票場所：東京学芸大学 西5号館（美術棟）造形実習室1
- 開票作業者：第9期選挙管理委員3名（佐藤、茂木、川人） ■立会人：横田浩子

〈開票結果概要〉

①有権者数：239名（前回229名）、投票用紙送付先：国内238、国外1、②投票率：38.9%（前回39.30%）、③消印有効投票封筒数：92（前回88）、④消印無効投票封筒数：1（2026年1月の消印のため）、⑤投票用紙総数：92（前回88）、⑥無効投票用紙数：1（前回2（16名以上の投票のため））、⑦有効投票用紙総数：91（前回86）、⑧有効得票数：896（前回828）

■得票数上位5名

第1位 西村德行（54票） 第2位 三澤一実（52票） 第3位 笠原広一（39票）
第4位 手塚千尋（38票） 第5位 畑山未央（36票） ※敬称略

選挙管理委員会は、得票数上位5名を理事候補者として理事会に報告し、令和8（2026）年1月25日の理事会において承認された。その後、5名全員が理事会の委嘱を受諾したため、以下の5名が第9期理事候補者として選出されたことを報告する。

■理事候補者（五十音順）

笠原広一、手塚千尋、西村德行、畑山未央、三澤一実

なお、本選挙結果は、次回総会において正式に報告する予定である。

以上

研究局より

■第59回日本美術教育研究発表会2025実施報告■

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 手塚千尋

概要

開催日時：令和7年（2025）年10月5日（日）9：00～16：30

会場：明治学院大学白金キャンパス本館（東京都港区白金台1-2-37）

開催形態：対面＋オンライン（Zoom）によるハイフレックス

参加者数：98名

内訳：

一般（海外）…5名、一般・会員（国内）…77名

学生・院生（海外）…3名、学生・院生（国内）…13名

発表件数：国内…33件、海外…6件

実際

本年度の発表会は、明治学院大学白金キャンパスを会場とし、オンラインを併用したハイフレックス方式で開催されました。国内外合わせて39件の口頭発表が行われ、今年度の傾向として、美術教育における生成AIの活用事例やICT活用に関する発表が目立ち、新しいメディアが拓く教育実践への関心の高さが伺えました。一方で、身体性やモノ・コトの相互作用を重視した造形教育に新たな意義を見出そうとする研究や、海外とのアート交流など、幅広いテーマについても活発な発表がありました。国際局との協働によるオンラインセッションでは、笠原広一運営委員（InSEA評議員）、片桐彩運営委員（前InSEA評議員）、佐藤真帆国際局員（前InSEA評議員）による司会進行のもと、活発な質疑応答が展開されました。

昼休みに行われた投稿者説明会では、2025年度より新規導入されたオンライン投稿・査読システムについて、立川論集編集委員長および池田副論集編集委員長より、具体的な操作方法を交えた解説が行われました。午後の交流会では、西村理事の進行によりワークショップが開催されました。色紙（いろがみ）によるグルーピングを経て、和やかな雰囲気の中で参加者同士の研究交流が行われました。大会終了後には全日本美術教育会議が開催され、2025年7月12日に文化庁へ提出された「次期学習指導要領における美術教育充実のための提言」について、三澤一実理事より報告がなされました。

本発表会にご参加いただいた皆さま、研究局・国際局をはじめとした理事・運営委員の皆さま、そして各大学から駆けつけてくださった学生アルバイトの皆さまのご支援とご協力に、深く感謝申し上げます。

次回の第60回発表会へのご参加も、心よりお待ちしております。

■造形・美術教育力養成講座2025■

事業局担当理事 三 澤 一 実

2026年3月15日現在、今年度に実施した2本の講座について報告します。(第3回講座は3月21日実施予定)

■第1回 「失敗は創造の母か? 「ヘボコン」が開く美術教育の未来」

日 時：11月22日(土)

講 師：石川大樹(ヘボコン主催者)

参加人数：13名

概 要：始めに石川大樹講師より、ヘボコンを理解する講義が行われました。「ヘボコン」とは、技術力の低い人のためのロボット相撲大会であり上手/下手、失敗/成功といった二元的な価値を超え、創造的でインクルーシブな学びを体現した試みであり、「うまくできないこと」にこそ創造の種があることや、多様な表現に寛容になれることを実感することで、創造教育のあり方を考えられることなどをお話いただきました。次に、実際にロボットを製作するワークショップを行い、制作したロボットでトーナメント戦を行いました。参加者からは『最も純粋に童心に帰れた気がします。失敗や勝敗を超えて、くだらないアイデアや非現実的な印象からどんどん形づくっていく感覚が面白かった。へぼさに力を与えていただきありがとうございました。うちのアトリエでも試したいと思います。などの感想がありました。』



■第2回 「糸、布、素材が教えてくれる! テキスタイルってやっぱ楽しい!」

日 時：2月15日(日)

講 師：鈴木純子(武蔵野美術大学 民俗資料室 教授)

参加人数：34名

概 要：鈴木講師のこれまでの制作風景と作品の紹介の後、講師自ら用意してきていただいた貴重な植物繊維や動物性の繊維などを実際に参加者が手に取り、触り、それぞれの感触や特徴を確かめました。ワークショップでは、直径20センチのダンボールの板に切れ目を入れて、身の回りにあるひもやチューブ、繊維などを使ってひもを編んでいきました。オンラインの参加者には、事前に材料を郵送しワークショップに参加していただきました。きれいに編むのではなく、素材の特性を生かし、あえて凸凹を付けるなどすると魅力的な紐ができることを学びました。この方法だと簡単に紐をつくることができ、またその紐を生活の中で生かして使うヒントなども教えていただきました。参加者の中に「早く帰って続きを編みたい」などの発言もあり感充実した制作体験となりました。



国際局より

■InSEA情報 (InSEA Professional Opportunities (2026.3.9) から) ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 西村德行

InSEA会員には、ほぼ一ヶ月に一度、ニュースがメールで配信されます。今回は3月9日に配信されたメールから、いくつかの情報をご紹介します。

■『International Journal for Art Education (IMAG)』について

第21号への投稿募集がはじまりました。今回の特集はテーマを設けず、美術教育の実践や芸術的な探究、地域との関わりなど、これまでテーマにとらわれて紹介しきれなかった多様な取り組みを広く募集しています。日々の実践やプロジェクト、創作活動を発信する良い機会です。画像と文章を組み合わせた「ビジュアル・エッセイ」のガイドラインに沿ってご執筆下さい。執筆ガイドラインおよび投稿フォームは、InSEAのウェブサイトでご確認いただけます。締切は、3月27日（金）です。なおIMAG第20号「コラボレーションとつながり」は、まもなくInSEAのウェブサイトで公開されます。

■『International Journal of Education through Art (IJETA)』について

特集号では「場所」と「地域に根ざした芸術教育」の再構築をテーマに論文を募集しています。地域に根ざした学習に芸術教育を組み込むことで、標準化カリキュラムにとらわれず、生態系や地域固有の知識、関係性を重視した教育の再考を促します。批判的に行なわれる地域教育は、地域や自然との関係に関する既成概念に疑問を投げかけ、共感的で持続可能な社会・生態系づくりや地域社会のエンパワーメントを目指します。特集号は、先住民の視点を取り入れた教育の可能性を探求し、美術教育の新しい方向性を提示することを目的としています。投稿者には、イメージとテキストを用いた実験的手法を通じて、先住民の視覚言語が教育や学術研究に与える変革を検討することが期待されています。また、進化生物学や生態学の知見を通じて、人間と自然の関係や教育現場での表現方法も考察されます。要旨（300語）の締切は2026年4月22日です。詳細はInSEAのHPでご確認ください。

■InSEAアジア地域会議（台湾）2026年5月15日～16日

2026年国際会議「交錯と共創：芸術教育の多様な道筋」は、2021年に開始された国立彰化師範大学（NCUE）の年次芸術教育フォーラムを基盤として開催されます。本会議は、国立彰化師範大学（NCUE）と国立中興大学（NCHU）が、InSEA世界評議員およびアジア地域評議会（ARC）と共同で主催します。会議は、2026年5月15日にNCUE（晋徳キャンパス）、16日にNCHUで開催されます。英語または中国語での発表を、「癒しの実践と社会的共感」「芸術教育と学習」「研究と知識革新」「テクノロジーと学際的な未来」の4つの分野で受け付けています。詳細は、会議ウェブサイトまたはFacebookページをご覧ください。



大会ホームページから

事務局より

■事務局便り■

事務局長 岩崎 仁 美

□会員の異動

(退会者) 吉野榮子様 森山和義様 金山和彦様 花坂歩様
慶野英里名様 林亨様

(これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました)

(入会者) 岡野茜様 石原加奈子様 坂本祥世様 坂西和佳子様
笠原美帆様 吉田岳雄様

(これからどうぞよろしく願いいたします)

□『日本美術教育研究論集 第59号』が発刊されました

すでに会員の皆様のお手元に届けられていることと思いますが、今号の論集は22本の論文と2本の海外研究者の発表抄録を掲載することができました。ご執筆いただいた皆様には深く感謝申し上げます。会員の皆様におかれましては、本年度も積極的に研究発表・論文執筆をご計画いただきますようお願い申し上げます。

□令和7(2025)年度の会費納入をありがとうございました

本会の運営は、公益に資することを第一の目的として、会員皆様方の貴重な会費によって成り立っております。会員・賛助会員の皆様のご協力により、昨年度も「第59回日本美術教育研究発表会2025」「造形・美術教育力養成講座」「造形美術教育フォーラム2025」を開催し、それぞれ大きな成果をあげることができました。引き続き、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、3年連続会費未納入の会員様につきましては、残念ながら「退会」の対応をとらせていただくこととなります。昨年度の会費をまだお納めでない方は、至急ご入金いただきますようお願いいたします。また、異動や住所変更等の際には、ホームページのお問い合わせ欄から、事務局までご一報いただければ幸いです。

○昨年度(2025年度)会費未納の方は、急ぎ会費7,000円を下記まで納入してください。

(※本年度(2026年度)の会費納入については、次回のニュース177号(7月発行予定)にてお願いをする予定です。)

【郵便振替】(公社)日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関(ネット銀行を含む)からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

■お問い合わせ先(事務局)

北海道教育大学 岩崎仁美 (E-mail :iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp)



■令和8(2026)年度第16回定時総会 招集通知■

令和8(2026)年度第16回定時総会を下記のように開催いたします。総会前には記念講演会を行いますので、あわせて多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

■日 時：2026年5月10日(日)午後15:15～16:15(※総会記念講演会後の開催です)

■場 所：武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス 503号室

■方 法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催

・URL <https://us06web.zoom.us/j/89721058110?pwd=FjjqaeaQwJL3MlbiXwVSdxXF1zwx0.1>

・ミーティングID：897 2105 8110 / パスコード：201430(会員専用)

・入室のための上記の情報(URL含む)は、5月1日以降に連合HPにも掲載予定です。

・オンライン参加の方はニックネームでのZoom入室はご遠慮ください。

お名前を確認の上、入室を承認させていただきます

・当日、Zoomでお困りの際は連合公式メール(info@insea-in-japan.or.jp)までご連絡ください。

■定時総会「出欠はがき」の提出にご協力ください

定時総会の可否は、公益社団法人法によって厳密に規定されています。必ず同封の「出欠はがき」(委任状含む)を返送していただきますようお願い申し上げます。

*総会議案は5月1日以降、連合ホームページ(<https://insea-in-japan.or.jp/>)に掲載いたしますので、ご質問などは連合公式メール(info@insea-in-japan.or.jp)にお願いします。

■《令和8(2026)年度 総会記念講演会》のご案内■

■日 時：2026年5月10日(日)午後13:30～15:00(※定時総会前の開催です)

■場 所：武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス 503号室

■方 法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催

■申 込：Peatix/QRコードよりアクセスして申し込み(詳しくは、ニュース案内・HPを参照)

■講演者：小林恭代・平田朝一 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

■題 目：「学習指導要領実施状況調査の結果と指導の改善・充実」

*総会記念講演会へは会員以外の方も自由に参加できます(参加費無料)。ぜひ広く呼びかけてご参加ください。